

## 第6回日タイ観光ワーキンググループ ～DMOの使命と役割～



2026. 2. 13 (金) 13:30～16:30

運輸総合研究所2階会議室よりオンライン配信 (Zoomウェビナー) ※日タイ英同時通訳

主催：一般財団法人運輸総合研究所 (JTTRI)、一般財団法人運輸総合研究所アセアン・インド地域事務所 (AIRO)、タイ観光スポーツ省 (MOTS)  
後援：観光庁

### 1. 開会挨拶



宿利 正史  
運輸総合研究所 会長



ナッターリヤー・タウィーウォン  
タイ観光スポーツ省次官

### 2. 来賓挨拶



ウィッチュ・ウェチャーチャーワ  
駐日タイ王国特命全権大使



日本の観光政策と  
DMOに期待する役割  
村田 茂樹  
観光庁長官

### 3. 基調講演

#### 4. 発表① DMO等地域主導による持続可能な地域づくりの取組について



世界に開かれた持続可能な観光地を目指して  
～「熊野古道」から「KUMANO KODO」へ～  
多田 穂子 (オンライン)  
一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー  
代表理事



DASTAの役割におけるコミュニティ  
ベースツーリズムの開発  
ワッサナー・ボンサパン  
持続可能な観光のための指定地域管理局 (DASTA)  
コミュニティベースツーリズム (CBT) 部長

#### 5. 発表② 持続可能な地域づくりへの貢献について



持続可能な観光と地域づくりのための  
航空会社による貢献の可能性  
神戸 正憲  
運輸総合研究所 主任研究員



「調整から競争力へ」持続可能なMICE  
目的地を共創するCVB/DMOの進化する役割  
スパニッチ・ティアンシン  
タイコンベンション&エキシビジョンビューロー (TCEB)  
国際会議・インセンティブ部長

### 6. ディスカッション・質疑応答



論点整理  
和田 浩一  
運輸総合研究所 理事長

各登壇者及びワーキンググループメンバー

### 7. 閉会挨拶

ナッターリヤー・タウィーウォン  
タイ観光スポーツ省次官



奥田 哲也  
運輸総合研究所 専務理事  
運輸総合研究所 アセアン・インド地域事務所長

## 開催趣旨

本ワーキンググループ（WG）では、地域において観光を活用した地域振興を促進するために、地域経営の視点に立った観光地域づくりの司令塔となる観光地域づくり法人（DMO）に焦点をあて、その現状、課題、取組を紹介し意見交換を行いました。

## ■開会挨拶

### 宿利 正史 運輸総合研究所 会長

これまで5回にわたりソフトパワーの活用による観光の地域分散や、持続可能な観光地経営など、両国が共通して直面する課題をテーマに、現地調査と議論を重ねました。「持続可能な観光地経営」のあり方については、特に地域資源の磨き上げや地域主体による観光開発の重要性、観光によって生み出される利益をいかに地域へ還元するか、などについて活発な議論を通じて、観光地が抱える課題の可視化、コミュニティとの協働、多様な主体が連携するDMOの役割の重要性など、両国に共通する多くの論点が明らかになりました。「DMOの使命と役割」のテーマの下、観光を単なる誘客や経済活動として捉えるのではなく、地域の価値を守り、育て、将来につないでいくための仕組みとして位置づけることの重要性が、両国において一層高まる中で、DMOをめぐる議論を深めることは、まさに時宜を得たテーマで、大変意義深いものです。一方で、日本のDMOの役割や機能は、財源や人材、体制面を含め、なお多くの課題を抱えているのが現状です。したがって本日のWGは、成果を示す場ではなく、それぞれの現状や課題を率直に共有し、互いに学び合うことによって、課題解決に向けた対応策を考える場にしたいと考えます。

併せて、ナットリヤー次官をはじめ日タイの調査団の皆様には、一昨日、昨日と2日間にわたり、田辺市熊野ツーリズム・ビューローをはじめ、和歌山県田辺市、新宮市、串本町及び白浜町の関係者の皆様、並びに南紀白浜エアポートの皆様の多大なる協力の下、和歌山県・熊野エリアを中心に現地調査を実施いただきました。本日のディスカッションでは、有識者からの発表と共に、この現地調査を通じて得られた気づきや知見も取り入れて、ぜひ実践的な議論を深めていただきたいと思います。最後に本日の議論が両国の観光政策や地域づくりの実務に還元され、持続可能な観光地経営のさらなる発展につながることを、そして、何よりも、来年、日タイ修好140周年を迎える日本とタイ王国の友好協力関係の一層の強化につながることを心より期待します。

### ナットリヤー・タウィーウォン タイ観光スポーツ省次官

第6回日タイ観光WGに出席できることは大変光栄です。約2日間にわたり、熊野エリアを中心にDMOの運営に関する現地視察及び意見交換の機会を設けていただいた運輸総合研究所に対し心より感謝申し上げます。

タイ側代表団は大変感銘を受け、多くの学びを得ることができました。これらの知見は、タイの観光振興に



において大いに有益となるものです。とりわけ、田辺市熊野ツーリズムビューローの取組は、持続可能な観光マネジメントにおいて成功を収めており、熊野古道及び周辺の自然環境の保全を重視した結果、地域が世界遺産に登録されるに至った点は誠に賞賛に値するものです。本日のWGは日本側より提案いただいた「DMOの使命と役割」をテーマとしており、観光地経営組織としてのDMOの役割について、体系的かつ効果的、そして持続可能な観光開発を実現するための知見や活動事例を共有する重要な場です。両国は観光分野において共通する背景や課題を抱えております。本WGは、具体的な協力関係の構築や、それぞれの国の実態に即したDMOのあり方を発展させるための大変重要な機会です。タイ側は、熊野エリアへの訪問を通じて、DMOがどの程度の役割、権限、責任を担うべきかについて、より明確な視点を獲得することができたと感じています。それこそが、真の「持続可能な観光」へと繋がるものと確信しています。本日の会議が有意義な学びと建設的な提案を生み出し、今後とも両国の友好協力関係を一層強化していく契機となることを心より期待しています。

## 開催概要

### ■来賓挨拶

#### ウィッチュ・ウェチャーチャーワ 駐日タイ王国特命全権大使

今回は、DMOの役割について議論することは両国の協力関係を築き、地域の持続可能な観光の実現に向けて非常に有益である。タイにおいても、観光によって生み出される利益を地元で分配するだけでなく、有益な形で地域に還元していくことが必要である。さらに観光は、国レベルでの友好と相互理解を促進し、良好な両国関係の強固な基盤を築く有意義な手段でもある。

この点で双方向の観光交流が継続的に拡大していることは喜ばしいことである。2024年、タイは約110万人の日本人観光客を迎え2年連続で100万人（前年比3.8%増）を超えた一方で、訪日タイ観光客は123万人（前年比7.3%増）に達した。これらの数字は両国民間に広がる友好関係を反映しているだけでなく、関連するサービス業やビジネスにも波及効果をもたらす、両国各地における収入と雇用の増加にも繋がっている。両国が相互に実施している査証免除措置が交流拡大に特に重要な役割を果たしていることを確信している。2027年にタイと日本が外交関係樹立140周年を迎えるにあたり、この流れを将来にわたり維持・発展させるためにも、引き続き相互の査証免除措置が継続されることを期待している。

私は駐日大使として在任中に、日本各地でタイのサービス産業の着実な拡大を目の当たりにした。特にタイのホテルブランドが各地へ展開していることは、日本の雇用と収入の創出に貢献するとともに、地域経済の活性化にも寄与している。このように、両国が観光交流を深めることそれ自身が、両国の経済に貢献するものと言える。また、多くの都道府県知事や市長と面会する中で、タイとの観光及び人的交流をさらに深化させようとする強い決意に深い感銘を受けた。そのための戦略の一つとしては、両国の文化的な共通点を強調



することが挙げられる。これは両国の文化や生活様式の密接な繋がりを反映したものであり、非常に大事な要素である。本日のWGにおいて、両国の参加者が様々な事例研究を通して学び、意見交換をすることで、貴重な情報と洞察を得ることを期待している。本日の議論が具体的な進展に繋がり、日本そしてASEAN地域の観光業にとって、より大きな利益となることを強く期待する。

## ■ 基調講演

### 日本の観光政策とDMOに期待する役割

村田 茂樹 観光庁長官

日本の国際観光は力強く回復し、2025年の訪日外国人旅行者数は約4,268万人、旅行消費額は(速報)約9.5兆円といずれも過去最高を更新した。市場は東アジアを基盤に欧米豪へも裾野が拡大しており、日本経済への寄与は一段と高まっている。タイは訪日者数は約123万人、消費額は約2,512億円でASEAN首位の重要市場である。他方、延べ宿泊者数は大幅に増加しているが、三大都市圏への集中が顕著であり、地方誘客の加速が喫緊の課題である。出国日本人数は6年ぶりに1,400万人を突破、タイを訪れる日本人は約109万人と着実に回復しつつあり、引き続きアウトバウンドの促進に向け様々な取組を推進していく。

観光政策は、持続可能な観光地域づくりが重要であり、ポリシーは「住んでよし 訪れてよしの観光地域づくり」である。旅行者の感動と地域住民との交流により、地域の良さや誇りの再認識、環境

や地場産業の保全、地域魅力の向上、さらなる誘客と観光消費、所得・生活の質の向上へとつながる好循環を理想形とする。基本方針は①持続可能な観光地域づくり、②インバウンドの地方誘客、③日本人の国内旅行促進の三本柱で進める。この方針の中で重要なのは、地域の観光を誰が担うかであり、中心はDMOである。DMOは自治体、観光事業者、住民など様々なステークホルダーと協働し、観光地の経営戦略を作り、着実に実施する法人である。観光庁は2015年に登録制度を創設し、ガイドラインに規定する要件を全て満たす法人を登録し、登録DMOへの支援等を通じて持続可能な観光地域づくりの実現を目指している。DMOに共通する課題は財源の確保と人材の確保であり、収入の6割近くが補助金、常勤職員の平均が16人、10人未満が半数以上と、小規模で出向や非正規も多く、知見の蓄積と能力維持が難しい。このため、昨年ガイドラインを改正し、観光地経営戦略の項目明確化、必須KPI/KGIの見直しの必須化、常勤3名以上の配置、研修受講の必須化、安定財源指標・財源計画の要件化などにより観光地及び組織マネジメントの強化を図っている。さらに、全国10の広域連携DMOを司令塔として支援を強化し、地域の実情に応じた事業を推進する枠組みを整える。

優良事例として、東北DMO(マーケティングデータ一元管理プラットフォーム)、愛媛県大洲市(官民一体の城下町の面的再生)、北海道倶知安町(定率制宿泊税導入による活動資金の確保)を紹介する。観光を単に人に来てもらう段階にとどめず、地域をどう経営し戦略産業にしていくか、その中心となるDMOの体制整備・機能強化を今後も支援していく方針である。



## Example of DMO initiative ①: Development and utilization of wide-area data 観光庁

■ **Tohoku Tourism Promotion Organization (General Incorporated Association)** [Management Area] Six prefectures in Tohoku (Aomori, Iwate, Miyagi, Akita, Yamagata, Fukushima) and Niigata Prefecture

- The Tohoku Tourism Promotion Organization has established the Tohoku Tourism DMP, which centrally manages mobility data, consumption and purchasing data, official statistical data, questionnaire survey data, and other datasets, and shares them with local governments and DMOs within the Tohoku region for use in tourism strategy formulation, marketing, and promotion.

### Examples

- By utilizing the Tohoku Tourism DMP and implementing a data-driven PDCA cycle, the Tohoku Tourism Promotion Organization carries out efficient and sustainable tourism destination management.
- To attract visitors to regional areas and promote wide-area tourism, the organization develops wide-area driving routes utilizing rental cars.



- In collaboration with the six prefectures of Tohoku and Niigata Prefecture, the organization promotes the long-stay project "Base! TOHOKU" in the Tohoku region.
- In collaboration with the JNTO, the organization conducts promotional activities. It also attracts visitors to the "Tabi Tohoku" (DMO website) through advertisements by the JNTO and the media.



#### [Initiatives for tourism DX utilizing the Tohoku Tourism DMP] Visit analysis(Dynamic)



#### [Provision of information to the JNTO and collaboration with it in information dissemination]

Summer Festivals in Tohoku (North Tohoku)

◆Click here for SNS introducing this content.◆  
 [English] Instagram/Facebook  
 [Japanese] Instagram Facebook

村田長官の講演資料

## ■発表①DMO等地域主導による持続可能な地域づくりの取組について

### 世界に開かれた持続可能な観光地を目指して

#### ～「熊野古道」から「KUMANO KODO」へ～

多田 稔子 一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー 代表理事

私たちのミッションは熊野地域の様々な人たちが笑顔で住み続けられることにある。観光振興は目的ではなく、持続可能なまちづくりのための手段として位置づけている。転機は2004年の熊野古道の世界遺産登録と2005年の広域合併であり、2つの出来事をまたとないチャンスと捉え、インバウンドを核とした観光地づくりが始まった。市内5つの観光協会が中心となって新たな観光組織の設立を模索し、そこに市長の英断と行政のサポートが入り、官民協働による観光振興が始まった。こうしてボトムアップで立ち上げた田辺市熊野ツーリズムビューローは、後に観光庁の提唱するDMOと認められ、成功事例として取り上げられるようになった。日本にはDMOが300以上あるが、ボトムアップでできた例は数えるほどである。



設立以来、受入地の整備を大切に、プロモーションより受入地のレベルアップに力を注いできた。さらに、設立当初からぶれずに貫いてきた5つの観光戦略の基本スタンス（「ブームよりルーツ」、「乱開発より保全・保存」、「マスより個人」、「インパクトではなくローインパクト」、「世界に開かれた上質な観光地に」）を大切にしている。地域に住む人たちが主役という考えに基づくレジデンスファーストであり、「住んでよし、訪れてよし」の順番を間違えてはいけなく、あくまでも住んでよしが先である。

コロナ禍では着地型旅行事業の売上は85%以上減となったが、危機を乗り越え、11億円超まで回復した。売上の97.5%が直接地域に回る。旅行代金が仕入れとして地域サプライヤーに支払われ、食材調達・施設修繕等地域内の二次支払いが発生し、地域への経済波及が広がる。経済的効果に加え、地元食材や文化へのこだわりが旅の満足感と住民のプライド醸成、歴史文化の継承につながる。観光により地域を豊かにする秘訣は、地域循環をどう考えるかにある。

パンデミックからの教訓として、国内需要を想定した事業を展開、

熊野の自然を活用した森林環境学習の商品化に踏み出した。市教育委員会と連携し2026年度に市内小学校全25校に提供予定で、自然のフィールドを案内する通訳者の養成も進んでいる。関わる人を増やし地域経済にも貢献しつつ、熊野自然学校／自然学習をもう一つの柱へと育てる。変化に合わせ柔軟に対応し、地域とともにレジリエントな組織運営を心がけることが大きな学びであった。

### DASTAの役割におけるCBTの開発

ワッサナー・ボンサパン 持続可能な観光のための指定地域管理局（DASTA）コミュニティベースドツーリズム（CBT）部長

DASTAはタイ政府によって2003年に設立された政府組織であり、観光で得た利益を地域に還元していくために設立された。国際基準に基づく観光地の持続可能な開発及び管理、ユネスコUCCN（創造都市ネットワーク）ガイドラインに従う創造都市の開発、持続可能な行政における地方自治体の能力開発、コミュニティベースドツーリズム（CBT：環境的、社会的、文化的な持続可能性を考慮した観光）の開発等を担っている。持続可能な観光の推進は4つの重点目標のもと行われており、①観光地レベル：グローバル持続可能な観光基準に基づくDMOの開発・統合・管理、②都市レベル：UCCNを活用した都市観光の発展、③地方政府組織（LGO）レベル：STMS（持続可能な観光マネジメント基準）による潜在能力開発、④地域組織レベル：小規模組織・機関向けに「CBTタイランド」ツールと創造的観光開発の提供、である。観光スポーツ省の下で3つの主要組織が連携し、まずDASTAが観光アトラクションを質の高い基準で開発する基盤機能を担い、次に観光局（DOT）が基準認証を行い、認証後は観光庁（TAT）が需要側に対して観光地のプロモーションを行うという枠組みである。DASTAのビジョンは、指定地域の開発を統合し、質と基準を備えた観光地を持続可能な成長へ導く卓越した組織になることである。



DASTAは9つの指定地域を担当しており、チェンライ、ソクラー湖流域、スコタイ、ルーイ等が含まれる。各指定地域は5年程度の戦略計画を持ち、例としてパタヤは創造的でグリーンイノベティブな環境配慮型の方向性、ソクラーはエコツーリズムおよび文化観光のモデルを目指している。持続可能な観光開発ルールと基準は地方自治体レベル／観光目的レベル／コミュニティレベルに分かれており、特にコミュニティが基準を満たし、観光への参画による副収入を得る設計を重視している。これによりコミュニティに過度な負担をかけずに、観光客を受け入れることが可能となる。

CBTの開発プロセスは、まず「CBTタイランド基準」に基づきコミュニティの能力を強化し、次にクリエイティブツーリズムや低炭素といったトピックを取り入れて付加価値をつける。さらに、製品テストやパートナーネットワークを通じて質の高い市場へと接続し、国際基準の達成と各種アワードの獲得を推進する。「コミュニティ調査」→「準備」→「CBT能力開発」→「市場アクセス」→「維持」の流れを地域との信頼関係を構築しながら進めている。現在、このCBTの取組は125のコミュニティへ拡大している。クリエイティブ・アクティビティは41件に達し、例えばナーン県の競

**Forest Environmental Program** Challenges with Covid-19

Forestry Experience Nature Walk Kumano Kodo Walk

● Diverse "Hands-on" experiences in Kumano  
● Interpreters Support Children's Learning

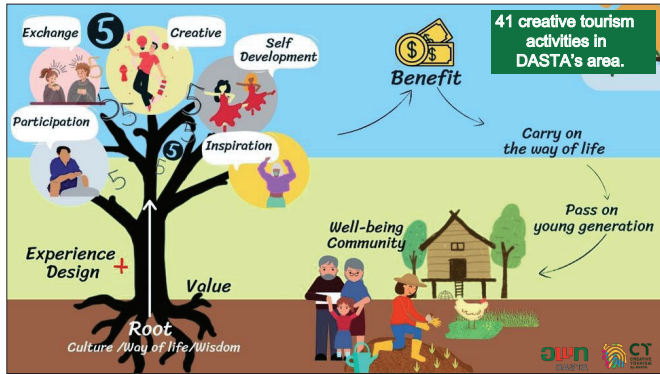
Interpreter

Timber Processing Tour Woodworking Experience

Active, Interactive, and Deep Learning  
⇒ Offered to All 25 Tanabe City Elementary Schools

多田代表理事の発表資料

酒船の船首ペイント体験や、ホイ・クラフト（貝殻クラフト）など、未活用素材の価値化を行っている。中には、ココナッツを健康志向の食品に加工し、1ドルから50ドルへと大幅に付加価値を高めた事例もある。



ワッサナー部長の発表資料

## ■発表②持続可能な地域づくりへの貢献について 持続可能な観光と地域づくりのための航空会社による貢献の可能性

神戸 正憲 運輸総合研究所 主任研究員

航空会社は観光・人的交流に大きな影響を持つ一方で、CO<sub>2</sub>排出や観光集中を助長する負の側面も強く見られるようになり、今後は送客を超えた役割が求められる。大都市から国内の地域へ直接旅客を運び、国際輸送も担うというユニークな特性を生かし、持続可能な観光、観光による地域経営に航空会社はどう貢献できるかを研究テーマとしANA、JAL、マレーシア航空グループ（MAG）の3社にインタビューを実施した。



化、機内販売を通じたフェアトレードとその売上の10%をサンゴ礁保全に充当するプロジェクト等により、旅行者の選択と商品設計を通じて地域の持続可能性に寄与している。

これらの例をふまえて、航空会社への提言として、①送客産業から地域共生型の「地域づくりインフラ」へのビジョン転換を行い、地域の意思決定と目標達成に伴走すること、②GSTC国際基準に基づく地域支援を実施し、関係人口の創出を図ること、③IATA（国際航空運送協会）のDDS（航空券発券データ）等のデータを活用して戦略立案を行い、機内や予約など航空会社独自のシステムを地域価値の発信基盤として再定義すること、④航空のCRM（クルー・リソース・マネジメント）を地域組織の合意形成やレジリエンス評価に転用し、行政・企業・住民が一つのチームとして意思決定する枠組みをつくることを提案する。

### Proposals for future Airlines for Sustainable Tourism and Destination Management

#### Local Community (DMO may be functioning)

↑↑↑  
Airline

#### ① Further expansion of existing initiatives by some airlines

- ➔ **Visionary Shift:**  
From a "Guest-Sending Industry" to a Community-Based "Destination Development Infrastructure"
- ➔ **Management & Organizational Support:**  
Solving regional issues and supporting decision-making through MOUs and talent secondment
- ➔ **Implementation of International Standards:**  
Promoting sustainable tourism destination management based on global indices (e.g., GSTC)
- ➔ **Creation of "Relational Population":**  
Developing experiences that foster local pride and building exchange networks connecting Cities and Regions in a country, and domestic and international stakeholders between countries.
- ➔ **Data Strategy:**  
High-precision inbound marketing leveraging proprietary data such as IATA DDS
- ➔ **Enhancement of Communication Power:**  
Transforming owned media (including in-flight and booking systems) into a platform for communicating regional value

神戸主任研究員の発表資料

## 「調整から競争力へ」持続可能なMICE目的地を共創する CVB/DMOの進化する役割

スパニッチ・ティアンシン タイコンベンション&エキシビジョンビューロー（TCEB）  
国際会議・インセンティブ部長

持続可能なMICE（企業等の会議、企業等の行う報奨・研修旅行、国際機関・団体、学会等が行う国際会議、展示会・見本市、イベントなど、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称）目的地は単一の組織では実現できず、政府・民間・地域コミュニティが共に設計し、共に意思決定し、共に価値を創造することで成り立つ。協力はコストではなく、目的地にとって戦略的な優位性となり、長期的な競争力へとつながる。コンベンション&ビジターズビューロー（CVB）の役割は従来の調整から進化し、成功を生み出す環境づくりへと拡大している。その要因は①関係者を同じ目標の下に結びつけること、②業界が価値創造できるツール・考え方・プラットフォームを提供すること、③パートナーや地域コミュニティと共創すること、である。この3つのステップがMICE産業発展の鍵とされる。



持続可能性は一つの組織の問題ではなく、全てのセクターが協力して取り組むシステムであり、分断されたままでは長期的目標は達成できない。協働のプロセスでは、計画の実行よりもまず目標を揃

えることが出発点であり、パートナーの選定は「数ではなく質」を重視し、役割の明確化と価値の共創が信頼を生む。信頼があるからこそ政策が現場で実行できる。その中でDMOは、世界的トレンドを地域文脈に適應させ、観光産業全体の持続可能性を実現する役割を持つ。CVBが協力を果たする方法としては、①中立的協働プラットフォームとなること（企業を巻き込むキャンペーン等）、②関係者間の障壁を取り除くこと（情報・手続の簡素化）、③単発ではなく長期的な協力を育てることが挙げられ、これにより「MICEコミュニティ」として持続可能な価値を生む基盤が構築される。

タイの事例では、TCEBがMICE産業のコネクターとして、全国の主要MICE都市をつなぎ、政府機関と民間事業者のマッチングを行い、主要都市だけでなく10のMICE都市へと機会を広げている。各都市は独自の強みと体験を持ち、会議・インセンティブ旅行・地域文化と連動したイベントなど多様なMICEを実施可能である。また、地域の祭りを国際市場に向けたプロモーションに活用し、文化とMICEを組み合わせることで価値創造を可能にしており、チェンマイでは年間12の祭りや連携した取組が行われている。戦略的な協働は、短期成果のみならず目的地の価値を長期的に高め、価格競争ではなく独自性・体験価値で競争する基盤となる。MICEを地方へ広げることで経済の強靱性・持続性が高まり、バランスある地域開発が観光業界全体の発展を可能にする。



スパニッチ部長の発表資料

## ■ディスカッション・質疑応答

### 【日本側】

- 宿利 正史 運輸総合研究所 会長
- 奥田 哲也 運輸総合研究所 専務理事/アセアン・インド地域事務所長（共同議長）
- 和田 浩一 運輸総合研究所 理事長
- 齋藤 喬 国土交通省観光庁 国際観光課長
- 竹中 理登 国際観光振興機構（JNTO） 企画総室長
- 佐々木 凜太郎 在タイ日本国大使館 一等書記官（オンライン）
- 中杉 元 国際観光振興機構（JNTO） バンコク事務所長（オンライン）
- 多田 稔子 田辺市熊野ツーリズムビューロー 代表理事（オンライン）
- 神戸 正憲 運輸総合研究所 主任研究員
- 富田 晃弘 運輸総合研究所アセアン・インド地域事務所 次長/主任研究員

### 【タイ側】

- ナッターヤー・タウィーウォン 観光スポーツ省（MOTS） 次官（共同議長）
- ウィッチャニー・ヴティポン 観光スポーツ省観光局（DOT） 観光地開発専門家

- グリダー・シーソムウォン タイ政府観光庁（TAT） 東アジア副局長
- ワッサナー・ボンサバン 持続可能な観光のための指定地域管理局（DASTA） コミュニティベースドツーリズム（CBT） 部長
- スパニッチ・ティアンシン タイコンベンション&エキシビジョンビューロー（TCEB） 国際会議・インセンティブ部長
- スパークディー・ポーティヤラド 研究開発推進機関「タイ科学・研究・イノベーション」（TSRI） シニアスペシャリスト
- ナランヤー・バン・オー 観光スポーツ省（MOTS） 国際部 チーフ

## I. 論点整理

### 和田 浩一 運輸総合研究所 理事長

人口減少が進む日本では、「成長戦略の柱、地域活性化の切り札」とされ、大変期待の大きい分野である。一方で、観光に携わる者は、（旅行者の数など）観光自体が目的ではなく、観光を手段として活用し、いかに地域を活性化するかに留意することが重要だと思う。

日本でもタイでも、東京、京都、大阪、バンコクなどの都市部から、いかに地方部に旅行してもらえるようにするか、観光のメリットを地方部が置かれている課題の解決につなげていくかが最も重要かつ共通した課題だと思う。今日の皆さんのお話を伺い、本日の議論の軸として以下の3点を提示する。これらを中心に有益な意見交換が行われることを期待している。

1. DMOの成功事例をいかに作るか
2. 持続可能な観光をいかに推進するか
3. 地域内の合意形成をどのように図るか

## II. 和歌山県現地調査を通じて感じたこと

**DOT**：住民重視の観光姿勢からオーバーツーリズム克服の示唆を得るとともに、日本のDMOの取組は大いに参考となった。

**TAT**：熊野の明確なターゲットングや空港連携に学び、タイにおいても戦略的な市場選定とDMO推進の重要性を再認識した。

**DASTA**：日本の取組に感銘を受け、質重視・地域分散型観光の推進と中央・地域連携の強化が今後の課題であると認識した。

**TCEB**：市場ニーズの把握とデジタル活用、交通連携による地域分散が重要であり、質の高い観光と民間連携が鍵である。

**TSRI**：日本のDMO推進や学術連携の実践から多くを学び、タイにおける持続可能・脱炭素観光の研究推進に活かしたい。

**MOTS**：人口減少下でも地域主導で運営する日本のDMOに学び、住民主体の観光振興と部局横断的連携の強化が重要と認識した。

**JNTO**：地域ビジョンを貫くDMOの姿勢と語り部の力に感銘を受け、地域のストーリーを適切に市場に届けることが重要である。

**観光庁**：DMOは地域の将来像を描き合意形成を促す中核的存在であり、持続可能な観光モデルの重要性を再確認した。

**多田氏**：皆さんの意見に感謝。人口減少社会において観光は地域の重要な武器。観光客によって、住民が地域の価値に気づき、誇りを取り戻すことになる。



### Ⅲ. 有識者発表を通じて感じたこと

**観光庁**：地方分散と住民重視の持続可能な観光の両立のため、地域合意を基盤にDMOが好循環を生み出す取組への支援が重要である。

**JNTO**：地方創生の中核となるDMOと連携し、海外ネットワークを活用したマーケティングとプロモーションで地方誘客を推進したい。

**在タイ日本国大使館**：DMOはマネジメントとマーケティング双方の視点が重要であり、地域主体で発信できる日本の強みを活かし知見共有を深めたい。

**JNTO**：訪日タイ人はリピーターが多く、地域のストーリーへの関心が高まっており、若年層誘致やテーマ型交流の強化が重要である。

**TSRI**：日本のDMO運営や観光ルート形成に感銘を受け、交通整備や文化資源活用をタイでも発展させたい。

**DASTA**：熊野の世界遺産や住民の誇りに学び、航空会社との連携や食文化発信などを通じ地域価値向上を図りたい。

**TSRI**：観光を地域発展と高齢化対策の鍵と位置づけ、DMOのガバナンス強化、予算確保、人材育成、民間連携が重要である。

### Ⅳ. 質疑応答

**Q (オンライン視聴者)**：DASTAの説明で農業の従事者が農業を本業として収入を得ながら、観光で副収入を得るといった発言があったが、タイではどれほどの事例があるのか教えていただきたい。

**A (DASTA)**：タイのチョンブリでは、ココナッツ農園での仕事を本業とする住民たちがいた。昔から根付いている食文化などがあつたが、DASTAはそれらが観光に活かされていない点に着目し、利益の循環を目指して、地域の主婦が自らの食文化を紹介することにより観光に活かさないかと提案したところ、地域住民の賛同が得られた。それを機に、地域住民が地元の歴史の勉強をするようになり、観光に活かされている。さらに、観光客の増加に伴ってココナッツの需要が高まり、ココナッツ産業を発展させるという相乗効果も生まれた。観光客の受け入れ態勢の整備も重要だが、どのような観光客をターゲットとし、食文化をメインとするのか、美容をメインとするのか等のコンセプトの明確化が、特に国外の観光客には重要だと思う。多様な人々の意見を集約することにより特産品の開発もより一層進む。何よりココナッツ農家の人々が、強制されるのではなく意欲的に取り組んでいるので、活動が途絶えずに持続し、観光業の活性化によって元々の地場産業も発展する。本業の農業による収入に加え、観光の収入が得られることによって相乗効果が生まれているという一つの事例である。



### ■閉会挨拶

#### ナツリヤー・タウィーウォン タイ観光スポーツ省次官

貴重な意見交換と知識の共有ができたことに心より御礼申し上げます。今回のWGでは熊野エリアの事例から多くの示唆を得ることができた。明確な組織構造を持ち、データに基づいて意思決定を行うDMOは、観光経済と地域の暮らしのバランスを保つ上で重要な役割を果たすことが改めて示された。また、観光振興を担う機関の存在が、持続可能性と地域の利益を最優先に、組織を超えて連携して体系的かつ効果的な観光推進を行うために重要であることを確認できた。本日のWGが、両国の学術協力における新たな一歩となり、観光政策やマネジメントの具体的な成果に繋がることを心より願っている。今回、会場及びオンラインで参加いただいた皆様に御礼申し上げます。次回の会議で、ぜひタイにてお迎えできることを楽しみにしている。

#### 奥田 哲也 運輸総合研究所 専務理事・アセアン・インド地域事務所長

本日のWGは、現地調査の成果も踏まえ、「日タイ両国における持続可能な観光の実現」という本WGの基本テーマに関し、「DMOの使命と役割」の観点から議論をしたが、その議論に先立ち、元観光庁長官でもある和田理事長からの論点整理がなされた。DMOをめぐる、いかにして模範となる成功事例を作り出すか、その際、国や自治体、民間などの関係者がどのように関与していくのかについて問題意識の共有がなされた。本日のWGでは両国より、現地調査やこれまでの経験、さらには、これまでのWGの議論の成果を踏まえた有益な発表、議論をいただいた。これにより、地域の自然・文化・暮らしを踏まえ、「どのような地域の姿を目指すのか」という実現すべき価値を明確にし、地域内の合意形成を図ること、そして観光の効果を地域産業の持続性や暮らしの質の向上といった課題解決にどう結びつけていくのか、その際DMOはどのような役割を果たすべきなのか、という点について理解が深まったと思う。本日の有益な意見は、当研究所より関係者の皆様へ確実にフィードバックさせていただく。

本WGは、両国における「持続可能な観光の実現」に向け、関係者がその問題意識に基づく議論の成果を共有し、それを現場にフィードバックして実践し、さらに解決すべき問題点を持ち寄るための「対話の場」であると考えている。さらにはここでの成果を、両国以外の、例えばASEAN諸国において課題を共有する諸国に、課題解決へのヒントを提供する場でもあるとも考えている。本日の議論が、両国の全ての関係者における今後の取組や、次回以降の本WGにおける議論につながるよう、当研究所として引き続き取り組んでいく。



当日の報告資料等は運輸総合研究所のWEBページでご覧いただけます。  
<https://www.jttri.or.jp/events/2026/symposium260213.html>

